

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
しんいのり子 信一 瞳人 きいち	くるみ	田猫				山菜		山菜 のり子 展平 六弦 名負人	しんい 梗舟	楽 春代 恵子 はっち 梗舟	山菜	俊之	和永 ひろ志 音思	土璃 音思
子 の 世 話 に な る は ま だ 先 大 根 干 す	丹 頂 は 湖 畔 の 宙 を 鳴 ら し を り	息 白 し り ボン 結 び の 道 中 着	ふ く よ か な 陽 を 浴 び て を り 鳥 の 恋	春 色 の 卵 や 母 の さ し す せ そ	囀 が 入 り て 季 寄 せ の 軽 き こ と	凍 空 や 親 仁 湯 切 り の て ば を 振 る	鳥 打 ち を 阿 弥 陀 に 行 か む 風 生 忌	寒 椿 一 人 娘 の よ う に 咲 く	球 面 に 刹 那 の 世 界 石 鱈 玉	下 萌 を 猫 し な や か に パ ト ロ ー ル	石 鱈 玉 昔 と 変 わ ら ぬ 裏 露 地 よ	シ ー ソ ー や 一 歩 進 み て 猫 の 恋	皺 の 手 を 合 わ す 卒 寿 や 寒 卵	金 箔 の ひ と ひ ら の せ て 桜 餅
朝子	光雲2	おにこ 長谷川	くるみ	神谷たくみ	山菜	ひろ志	瞳人	小島隆昭	森佳月	しーしー	宇田靖之	米山カロ ー リング	ことは	展平

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年二月
		ことは 梗舟	佳月		わがん 信一	わがん ひろ志 鶴城		しんい つづ金	たくみ 名負人	しーしー		暦文	総太郎	たくみ	
コインランドリーの左廻りや春の雪	待ちわびる氏子の願い御神渡り	青き踏む老いの自由に胸を張り <small>年齢を重ねたからこそ得た解放感。健康で歩き若返りたいですね。</small>	春の雪選挙結果は消えやすく <small>確かに日本人は特に忘れやすい。</small>	&#40053;の銀武勇伝語る三杯目	雪しまきいつしか時を忘れけり <small>全てを白で覆われる。時さえも。雪しまきの中、ゆっくりと時がすぎる生活に、充足している作者を詠んだ。</small>	靴に豆いたずらっ子の福は内 <small>リズムよく面白く。靴の中から「福豆」が！ウイットの効いた句ですね。</small>	春の夢誰彼の顔若きかな	淡雪や箒目埋むる龍安寺 <small>石庭の雪化粧も素敵。箒目が残る程の淡雪素敵です。</small>	ここからが生まれ故郷や花水木 <small>類推感がありますが、形がいいですね。</small>	春雪に足音残し投票へ <small>積もらない雪だから足跡でなく足音が残るんです。</small>	空風や大平原を席卷す	君の指触れなば解くる春の月 <small>熱い。</small>	空港に雑魚寝のひと夜猛吹雪 <small>疲れ様。</small>	春疾風走る球児を遠く見て <small>遠く見てが効いています。</small>	
石関六弦	和田イチ子	わがん	岡崎梗舟	白井俊之	立野音思	高田はっち	高松和永	新 暦文	吉田春代	しんい	秋谷風舎	春駒	北郷興亜	新井のり子	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年二月
朝子 ひろし ひろ志	春代 くるみ		総太郎 光雲2		ことは		田猫	米山 しーしー はっち	永 暦文 絵夢 鶴城			霜里 たくみ 俊之 風子	つぶ金		
微笑みはいつも絶やさずいぬふぐり いぬふぐりも微笑んでいるように見えますね。優しく観賞しましよ う。	水温むガバリと河馬大欠伸 写生が効いている。1音足して「河馬の大欠伸」にしたいと思いま す が・・・	たつぷりと雨吸うてのち木の芽晴	満願の高き柏手梅見茶屋	啓蟄や地図の先なる路地の店	春の雨止む頃鳥は寝てしまふ 作者の視線はどこか優しく同じ時間を共有しているかのようです。	春浅しソプラノ響くシニア猫	黒光る海苔を透かせばほの緑 食欲をそそる写生の句！	積もる気はありやなしやと名残り雪 納得します。「落ちては溶ける♪」のがなごり雪ですから。ありやな しやの言葉選びが良い。	囀りや木木も言の葉溢したり 静かな空間、時間ですね。言の葉溢しが上手い。音の層が重なって世 界に満ち満ちていくようだ。詩心ですね。	野暮じじいなれどそわそわ春を待つ	春立ちて旅の計画目白押し	いぬふぐりあだ名で呼ぶな俺のこと 気の毒な名前ですよね。二人の関係性が良く読み取れます、季語も ぴったり。なぜあだ名で呼ばれたくないのか、想像の余地が広がる。 季語の幹旋が秀逸。	マフラーに猫の毛つけて帰す朝 「帰す」が意味深です	重くても負はねばならぬ秋子の忌	
かれん	河野凡士	小林土璃	青木鶴城	総太郎	石川順一	雪待月田猫	龍野ひろし	霜里	岩清水彩香	峰岡名負人	平野 楽	大越恵子	ありぎりす	網野月を	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
くるみ			瞳人 彩香 俊之		春駒	つぶ金 光雲2 桂子 絵夢	霜里			米山 はっち	春代 ひろし			
歌の出る良い風呂の日の春の雪 「良いふるの日」と「春の雪」の取り合わせの妙味、お見事！！	落第を唸る寝汗や八十路来て	タマ電車窓越し観える櫻かな	誠実に生きて路傍の葦かな そういう小さな満足って見なくなりました。路傍(ろぼう)の響きが季語に寄り添い良い。路傍の葦という言葉が効いている。	かすめてくハの字のわだち待雪草	一病を友としたりし蜆汁	帰り花が付くと怖く感じるのは私だけでしょうか。子ども笑顔とそれを見守る親御さんの喜びが伝わってきます。「ふいの開花」「ふいの成長」が、響き合ひ子の成長が心を灯す。	雪兔子らの帰りし玄関に 小さな達磨にウサギ、あちらこちらに。	雁風呂や山のあなたに黄泉の国	足裏に赤絨毯の余寒かな	観梅やところどころに投句箱 投句箱ありますね。綺麗な梅を見てどんどん投句できそう。	末黒野にねぐら探しのネズミかな	水仙や水垢離果つる水面澄む 取り合わせが面白い。	釣り系の誘ふ公魚夕餉とす	啓蟄や地図の先なる路地の店
ひろ志	瞳人	宇田靖之	森佳月	しーしー	展平	米山カロ リング	ことは	染谷風子	持永喜夫	佐藤幹子	渋谷きいち	絵夢	癒香	総太郎

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
朝子	桂子				瞳人 六弦 癒香 佳月 鶴城	のり子 曆文 絵夢	ひろし	風子	一子 恵香 彩か れん 桂子			恵子 風子	展乎	
父遺す茶杓の反りや利休の忌 <small>お父さんの遺愛の茶杓に季語がよく効いている。</small>	マンションやひとつひとつの春燈 <small>何気無い日々の暮らしの幸せを感じますね。</small>	空焦げて獣伏すごとき野焼かな	蠟梅や空にはためく風の影	元町や舶来めきし春コート	つまらなきこの世に句点梅見かな <small>たまには句点もいいかも。句点の表現が良い。句点が効いています。一「句点」の措辞が素晴らしい！</small>	父唄い母の頬染む今年酒 <small>静かな多幸感。幸せの極み。唄（音）と色の対比が鮮やかで、家族の温もりが伝わって来る。</small>	盛っ切りの香る新酒やあては塩 <small>粹に飲む酒。</small>	冬ごもり衿付け替える長襦袢 <small>作者はきつと和服の似合う人。</small>	器用とは言へぬ生き様目刺焼く <small>立身出世を問わず、実直に生きてきたことに、誇りを持つている作者を詠んだ。めざしも焦がしたりして、共感。上五中七と下五への着地が飄々としながらも深い。不器用だけどと居直っている姿が良い。同感する部分があります。目刺焼くと着地が良い。</small>	寒牡丹触れて耳裏熱くする	道聞けば柳髪めぐり雪女	春近し猫に大きな鈴付けて <small>ステンドグラスを抜ける日差しが美しい。硝子絵のキリストに春の日脚の穏やかさを感じる作者に脱帽。</small>	硝子絵の青きキリスト日脚伸ぶ	しろきよのいろあるものは梅ひとつ <small>大きな鈴が印象的。</small>
吉田春代	高松和永	新曆文	秋谷風舎	しんい	新井のり子	春駒	北郷興亜	長谷川 おにこ	朝子	光雲2	山菜	くるみ	神谷たくみ	小島隆昭

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年二月
	和永 音思	彩香 癒香 しーしー 名負人				総太郎	春駒 楽 癒香	六弦	わがん		楽 霜里 展平 土璃			光雲2 きいち	
立春大吉裏返せども鬼は去ぬ	牙返るバスの終点我ひとり 皆さん、いろんな所で降りるのですね。	沢庵噛む恪気の飯の音高く 上方落語の「恪気の独楽」からの発想に沢庵の噛む音が響く。噛む音がリアルに聞こえる。女性の焼く餅はこわいです。	かたかごの花風の騒ぎに耳澄ます	見る夢は横浜ばかりえくぼ春	立春や馬一斉にゲートイン	改札ですれ違ふひと春帽子	病名は老化葛湯が処方箋 老化と加齢は致し方なし。くずゆを手に行っている姿が浮かぶ。	秋子の忌赤羽線を懐かしむ 埼玉県人の命綱だった赤羽線…	パンダ発つ後姿の雪達磨 雪だるまさえさみしくて後ろを向いている。秀逸な表現。	冬ぬくし欠伸うとうと昼下り	雪の城会津の酒は潔し 酒は会津はまれでしようか。きりりと冷やでいただきました。会津の酒、旨そう。「雪の城」が効いていると思います。	受験子を待つ母の手にぎり飯	「小選挙区」の幟高きや雪だるま	寒昴摩天楼縫ふ深夜バス とてもロマンチック。	
岩清水彩香	龍野ひろし	霜里	大越恵子	峰岡名負人	平野 楽	石関六弦	ありぎりす	網野月を	岡崎梗舟	和田イチ子	わがん	高田はっち	白井俊之	立野音思	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
	きいち	ことは朝子			土璃		かれん				佳月田猫	春駒かれん		
	千上がったダムに雨降れ春の雨 タイムリーな一句。	愛情は証明不能木瓜の花 愛情は理屈を超えて確かに存在するものかもしれません。そうなんです。愛情は照明不能。季語が効いている。	白シャツの赤きネクタイ春浅し	山の朝ぐぜり聴きて目覚めをり	野焼きして匂いの中の握り飯 臨場感があると思います。	初午祭尻尾や踊る猫パンチ	水は照り風は弾みて猫柳 川面に照り返されている猫柳の感じが出ています。	銀メダル墓に置きたる春彼岸	野遊びや卵サンドは三角に	銀メダル墓に置きたる春彼岸	受験生花より先に咲きにけり 桜咲けばよいですね。「花より先に」が秀逸。天真爛漫。誇らしそうな句。	寒の明け夢の結び目ほどけない 寒明けのまだ覚めきれない様子です。	さかさまにクラゲのごとく咲きし梅	春寒し道濡れて居て走り抜く
	佐藤幹子	染谷風子	持永喜夫	癒香	渋谷きいち	絵夢	河野凡士	総太郎	かれん	総太郎	小林土璃	青木鶴城	雪待月田猫	石川順一